

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和3年第37週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和3年第37週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和3年第37週（令和3年9月13日から令和3年9月19日まで）

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（1.86人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“結核予防週間「結核は、過去の病じゃありません。」”について取り上げました。

令和3年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

川崎市における令和2年の結核罹患率は9.9（人口10万対）と、全国（10.1）よりは低いものの、神奈川県（8.7）よりは高い状況です。年齢階級別では、60歳以上の割合が増加し、全体の6割を超えています。

結核は一般的に、患者の咳やくしゃみの際にしぶきと共に排出され、空気中に飛び散った結核菌を直接吸い込むことによって感染します。また、過去に感染したことのある方が、基礎疾患や加齢などで免疫力が低下すると、体内に冬眠状態で潜んでいた結核菌が再び増殖し、発症することもあります。

発症初期は発熱や咳など風邪と似た症状を呈するため、気付かないうちに進行してしまうことがあります。健診は必ず受け、痰のからむ咳、微熱、身体のだるさなどが2週間以上続く場合には早めに医療機関を受診しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

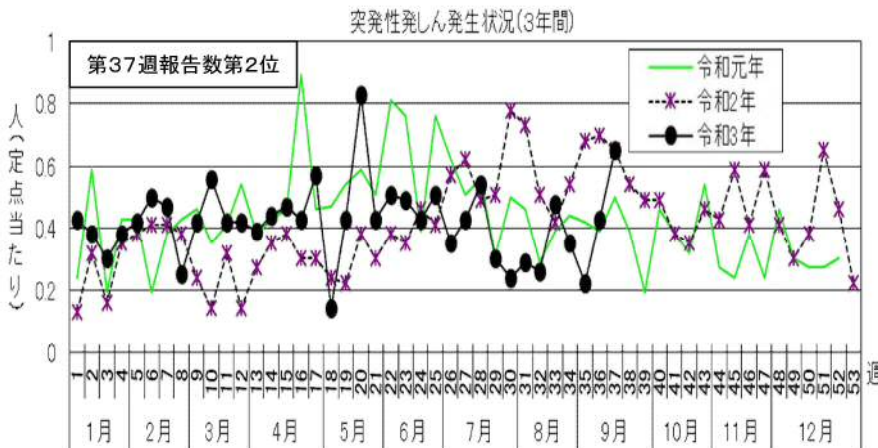
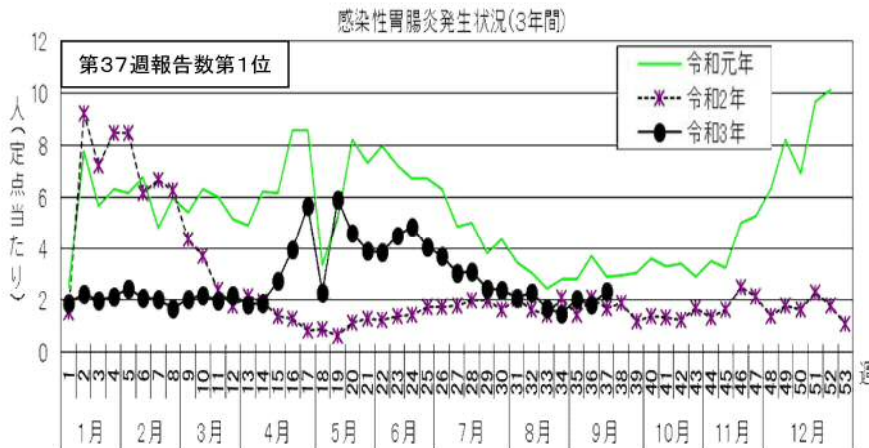
連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年9月13日（月）～令和3年9月19日（日）〔令和3年第37週〕の感染症発生状況

第37週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（1.86人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.65人と前週（0.43人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.56人と前週（0.44人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



結核予防週間「結核は、過去の病じゃありません。」

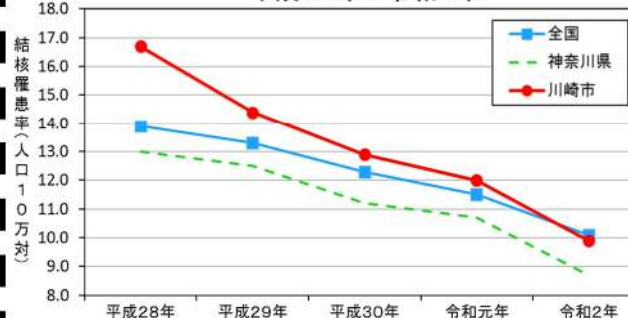
令和3年9月24日から9月30日までは結核予防週間です。

川崎市における令和2年の結核罹患率は9.9（人口10万対）と、全国（10.1）よりは低いものの、神奈川県（8.7）よりは高い状況です。年齢階級別では、60歳以上の割合が増加し、全体の6割を超えています。

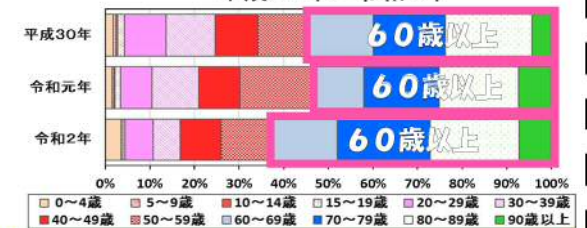
結核は一般的に、患者の咳やくしゃみの際にしぶきと共に排出され、空気中に飛び散った結核菌を直接吸い込むことによって感染します。また、過去に感染したことのある方が、基礎疾患や加齢などで免疫力が低下すると、体内に冬眠状態で潜んでいた結核菌が再び増殖し、発症することもあります。

発症初期は発熱や咳など風邪と似た症状を呈するため、気付かないうちに進行してしまうことがあります。健診は必ず受け、痰のからむ咳、微熱、身体のだるさなどが2週間以上続く場合には早めに医療機関を受診しましょう。

全国、神奈川県、川崎市における結核罹患率の年次推移
—平成28年～令和2年—



川崎市における結核年齢階級別発生状況
—平成30年～令和2年—



令和2年の結核罹患率の減少は、新型コロナウイルス感染症流行に伴う医療機関への受診控えや健診の受診率低下による影響も要因の一つと考えられています。